慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	法学研究第四十三巻(昭和四十五年自一号至十二号)総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1970
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.43, No.12 (1970. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19701215-0153

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法学研究　第四十三巻（昭和四十五年自一号至十二号）総目次

論説

	号数	頁	通頁	執筆者
人類学・特殊社会学・一般社会学……人種集団概念に関する考察――	一	一一	一一	米山桂三
カナダ本邦移民制限史の一断面	一	三七	三七	内山正熊
中共外交政策形成過程の研究……一九五三～四年を中心として――	一	七一	七一	石川忠雄 平松茂雄
アルベール・カミュの反抗の政治思想	一	一一五	一一五	奈良和重
アメリカ合衆国議会における先任者優先制（シニオリティ・システム）……とくに常任委員会を中心に――	一	一三七	一三七	太田俊太郎
アメリカの東南アジア政策……一九五四年ジュネーブ会議をめぐつて――	一	一六五	一六五	松本三郎
政治文化概念の成立と展開	一	一九五	一九五	内山秀夫
山東問題、五四運動をめぐる日中関係	一	二一五	二一五	池井優
マルシリウス・パドゥアにおけるアリストテレース受容の問題……その政治学的考察――	一	二三五	二三五	鷲見誠一
新聞の傾向に関する研究……新聞の内容についての質的分析――	二	一	二五九	生田正輝

英・米の地方政治制度（二・完）……二　二二　二八〇　藤原守胤
——その特質と問題点——
アメリカにおける労働組合財政に関する法的規制について……二　五九　三一七　宮本安美
公共企業体における労使協議制……三　一三　四〇九　峯村光郎
——公労法八条と労働組合の経営参加——
会社解散後の法人性と社団性……三　三七　四三三　高鳥正夫
オーストラリアにおける「住所の相違」事件……三　五一　四四七　平良
漁業水域の法的概念について……三　六九　四六五　中村洸
精神障害者に対する刑事処分について……三　九三　四八九　宮沢浩一
——社会治療処分再説——
不当労働行為制度における和解……三　一三七　五三三　阿久沢亀夫
訴訟上の和解の取消について……三　一五一　五四七　石川明
株主に新株引受権がある場合の申込証拠金の適法性……三　一六九　五六五　阪埜光男
——東京地裁の判決を中心として——
射倖奨約と条件の法理……三　一八九　五八五　倉沢康一郎
——損害保険契約法論のために——
領空の上限……三　二一七　六一三　栗林忠男
——その画定の意義と必要性をめぐつて——
株式の引受価額をめぐる二・三の問題……三　二四三　六三九　大賀祥充
——株式の時価発行とも関連して——
就業規則の一方的変更……四　一　六六七　川口実
——秋北バス事件・最高裁大法廷判決をめぐつて——
近代化へのコミュニケーション・アプローチ……四　二一　六八七　鶴木真
——二つの研究動向を中心として——
養老律令の編纂とその政治的背景……五　一　八一五　利光三津夫

少年審判補助機関の成立過程……五　三一　八四五　宮沢浩一
——序論的考察——
野外倉庫制度（Field Warehousing Arrangement）について……五　六七　八八一　諸沢英道
第三者のためにする訴訟上の和解にもとづく強制執行について……六　一　九六一　岸田貞夫
権力概念の検討……六　一八　九七八　石川明
——タルコット・パーソンズの場合——
中国共産党における毛沢東の権威とリーダーシップの生成と定着化過程……六　六二　一〇二二　霜野寿亮
——遵義会議（一九三五年一月）から六期六中全会（一九三八年十月）の直前まで——
朝鮮戦争と中国人民解放軍の近代化について……七　一　一一〇七　徳田教之
アメリカの対日政策……七　五四　一一六〇　石川忠雄
——ライシャワー大使の役割を中心として——
刑事政策家としてのフロイデンタール（一）……八　一　一二五三　平松茂雄
使用者理論の展開……八　三〇　一二八二　池井優
——労使関係における実質的同一性の理論と法人格否認の法理——
英米法体系とその司法行政の特質（一）……九　一　一三五九　宮沢浩一
刑事政策家としてのフロイデンタール（二）……九　四〇　一三九八　藤原守胤
大統領選挙委員団（エレクトラル・カウンシル）の改革……九　六六　一四二四　宮沢浩一
社会学における概念化と体系化……一〇　九　一五三三　太田俊太郎
政治学の性格に関する考察……一〇　三一　一五五五　米山桂三
——潮田江次教授の「政治概念」を継承して——
軍縮と世界法……一〇　五一　一五七五　中村菊男
Paul de Lagarde の政治哲学……一〇　七九　一六〇三　内山正熊
社会民衆党の創立……一〇　一〇一　一六二五　多田真鋤
神功銭鋳造をめぐる史的背景……一〇　一一九　一六四三　中村勝範
——皇朝銭に対する政治史的研覈——　利光三津夫

反行動主義者も否、非政治理論家も否……一〇　一四一　一六六五　奈良和重
アメリカ政治における郊外……一〇　一五九　一六八三　太田俊太郎
潮田政治学における政治概念論争の意味……一〇　一八五　一七〇九　堀江湛
——新カント派科学方法論の演じた役割——
東南アジア諸国の中国観とその政策……一〇　二一五　一七三九　松本三郎
——国連における中国代表権問題との関連において——
中国の対外理解……一〇　二五一　一七七五　池井優
——『参放消息』を手掛りとして——
W・E・B・デュボイとパン・アフリカニズム……一〇　二六九　一七九三　小田英郎
——一九〇〇年から一九一九年までの時期を中心として——
内村鑑三不敬事件……一〇　二九一　一八一五　鷲見誠一
——その思想史的考察——
「政治概念論争」における潮田学説……一〇　三一七　一八四一　根岸毅
——その特異な意義と限界——
イギリス理想主義における政治価値の問題……一〇　三五七　一八八一　萬田悦生
責任論への国民性の投影……一一　一　一九一一　青柳文雄
英米法体系とその司法行政の特質（二・完）……一一　二七　一九三七　藤原守胤
Argumentation and Intransigence（一）……一一　巻末一　Ilmar Tammelo
日米安全保障条約論……一二　一　二〇六九　中村菊男
——内山正熊教授の中立論批判——
権利自白論（一）……一二　一八　二〇八六　坂原正夫
Argumentation and Intransigence（二・完）……一二　巻末一　Ilmar Tammelo

資料

明治十六年・津中学卒業生不敬罪事件の裁判記録……四　六一　七二七　手塚　豊
明治法制史料拾遺（6）
山県有朋の「刑法改正理由」意見書……五　九二　九〇六　手塚　豊
明治法制史料拾遺（7）
馬場辰猪「日本監獄論」に関する新資料……六　一〇一　一〇六一　手塚　豊
明治法制史料拾遺（8）
マキアヴェルリ生誕五百年記念国際会議の印象と反響……七　八八　一一九四　内山正熊　板垣哲史
――G・プレッツォリーニ「マキアヴェルリの現代性」――
光妙寺三郎の決闘是認論及び「決闘条規」……八　四八　一三〇〇　手塚　豊
明治法制史料拾遺（9）
イルマー・タムメロ「法的場としての事物の本性」……九　一〇三　一四六一　原　秀男訳
スウェーデン刑事訴訟事件における人格調査に関する法律……一一　五四　一九六四　坂田　仁
(Lag 29 juni 1964 om personundersökning i brottmål)
神奈川裁判所御雇外人ヒルの拷問廃止建言書……一二　四一　二一〇九　手塚　豊
明治法制史料拾遺（10・完）

判例研究

〔商　法〕九〇　裏書の没収と連続ならびに商法五一八条による供託の効力……二　七九　三三七　商法研究会
〔刑　法〕一四……二　八四　三四二　江川　勝
〔労働法〕六六　三菱重工懲戒減給事件……二　八九　三四七　社会法研究会
〔最高裁民訴事例研究〕七二……二　九五　三五三　民事訴訟法研究会
〔最高裁刑訴事例研究〕三八……二　一〇七　三六五　刑事訴訟法研究会

〔商　法〕九一　受取人欄白地の手形の受取人欄になされた記名の抹消・変更と裏書の連続……四　九三　七五九　商法研究会
〔刑　法〕一五……四　九七　七六三　桜井　浩
〔労働法〕六七　荏原実業解雇事件……四　一〇三　七六九　社会法研究会
〔最高裁民訴事例研究〕七三……四　一〇九　七七五　民事訴訟法研究会
〔最高裁刑訴事例研究〕三九……四　一三〇　七九六　刑事訴訟法研究会
〔商　法〕九二　商法二六五条と手形行為……五　一〇四　九一八　商法研究会
〔刑　法〕一六……五　一〇八　九二二　中谷瑾子・筑間正泰
〔労働法〕六八　幸袋工作所事件……五　一一三　九二七　社会法研究会
〔最高裁民訴事例研究〕七四……五　一一八　九三二　民事訴訟法研究会
〔最高裁刑訴事例研究〕四〇……五　一二七　九四一　刑事訴訟法研究会
〔商　法〕九三　名義書換を失念した譲受人から増資新株を取得した名義株主である譲渡人に対する請求の可否……六　一一二　一〇七二　商法研究会
〔最高裁民訴事例研究〕七五……六　一一六　一〇七六　民事訴訟法研究会
〔最高裁刑訴事例研究〕四一……六　一二四　一〇八四　刑事訴訟法研究会
〔商　法〕九四　虚偽の登記の放置と商法一四条……七　九八　一二〇四　商法研究会
〔刑　法〕一七……七　一〇二　一二〇八　刑法研究会
〔最高裁民訴事例研究〕七六……七　一一一　一二一七　民事訴訟法研究会
〔最高裁刑訴事例研究〕四二……七　一二二　一二二八　刑事訴訟法研究会
〔商　法〕九五　商号使用差止仮処分と特別事情……八　六三　一三一五　商法研究会
〔刑　法〕一八　公正証書原本不実記載罪とその行使罪と詐欺罪との関係……八　六九　一三二一　刑法研究会
〔労働法〕六九　旭硝子事件……八　七三　一三二五　社会法研究会
〔最高裁民訴事例研究〕七七……八　七八　一三三〇　民事訴訟法研究会

〔商　法〕九六　仮処分による職務執行停止中の取締役の解任および後任取締役の選任を目的とする少数株主の株主総会招集の許可申請の許否、ならびに代表取締役職務代行者の地位と権限……九　一二四　一四八二　商法研究会
〔最高裁民訴事例研究〕七八……九　一三三　一四九一　民事訴訟法研究会
〔最高裁刑訴事例研究〕四三……九　一四六　一五〇四　刑事訴訟法研究会
〔商　法〕九七　合名会社の社員に対する代表権および業務執行権の喪失宣告……一一　六六　一九七六　商法研究会
〔刑　法〕一九　不動産侵奪罪にあたるとされた事例……一一　七一　一九八一　刑法研究会
〔最高裁民訴事例研究〕七九……一一　七七　一九八七　民事訴訟法研究会
〔最高裁刑訴事例研究〕四四……一一　八八　一九九八　刑事訴訟法研究会
〔商　法〕九八　法人格否認の法理と会社の実質的同一性……一二　四九　二一一七　商法研究会
〔刑　法〕二〇　土地所有者の氏名を冒用して起訴前の和解の申立をし内容虚偽の和解調書を作成させた場合と詐欺罪の成否……一二　五六　二一二四　刑法研究会
〔労働法〕七〇　臨時工化した試用工の解雇……一二　六三　二一三一　社会法研究会
〔最高裁民訴事例研究〕八〇……一二　六九　二一三七　民事訴訟法研究会
〔最高裁刑訴事例研究〕四五……一二　七九　二一四九　刑事訴訟法研究会

紹介と批評

浜田幸策著『都市貴族の研究――メディチ家の研究――』……二　一一七　三七五　鷲見誠一
E・S・レッドフォード著『行政国家における民主主義』……二　一二一　三七九　根岸毅
阪埜光男著『新株引受権の法理――株主地位の再検討――』……二　一二九　三八七　田中誠二
難波田春夫著『社会科学研究』……四　一三七　八〇三　多田真鋤
C・E・ブラック著（内山秀夫・石川一雄訳）『近代化のダイナミックス』――歴史の比較研究――……四　一四一　八〇七　外川継男

R・C・タッカー著『マルクスの革命理念』……五　一三六　九五〇　奈良和重
手塚豊・利光三津夫編著『民事慣例類集』附　畿道巡回日記抄……五　一四〇　九五四　石井良助
大森忠夫著『保険契約法の研究』……六　一三〇　一〇九〇　倉沢康一郎
A・ホフマン著『国際コミュニケーションと新らしい外交』……六　一三五　一〇九五　鶴木　真
中村菊男著『近代日本政治史の展開』……六　一四〇　一一〇〇　曽村保信
人見康子著『現代夫婦財産法の展開』……七　一二八　一二三四　小池隆一
D・ジェルミーノ著『イデオロギーを超えて――政治理論の復活』……七　一三二　一二三八　奈良和重
L・W・パイ、S・ヴァーバ共編『政治文化と政治発展』……七　一三六　一二四二　内山秀夫
L・S・フォイヤー著『マルクスと知識人――脱イデオロギー論文集』……八　八八　一三四〇　奈良和重
A・C・ヒル、M・キルソン共編『アフリカについて』……八　九四　一三四六　小田英郎
――一八〇〇年代から一九五〇年代にいたるアメリカ黒人指導者のアフリカ感――
S・M・リプセット、R・ベンディクス著（鈴木広訳）
『産業社会の構造――社会的移動の比較分析――』……八　九八　一三五〇　川合隆男
J・K・ガルブレーズ著『いかに軍部を統制するか』……九　一五一　一五〇九　内山正熊
ピーター・リオン著『東南アジアにおける戦争と平和』……九　一五八　一五一六　松本三郎
R・T・ホワイト著『反哲学者たち――十八世紀フランスにおけるフィロゾーフ研究』……一一　九二　二〇〇二　奈良和重
フレデリック・C・モウジャ著『民主主義と公務員制』……一一　九七　二〇〇七　根岸　毅
内田芳明著『ヴェーバー社会科学の基礎研究』……一二　八五　二一五三　鷲見誠一
M・ヴォルフ著『訴訟法における認諾』……一二　九〇　二一五八　坂原正夫
ウィンドルシャム卿著『コミュニケーションと政治権力』……一二　九七　二一六五　霜野寿亮